

第8回全国銃剣道指導者研修会



田中裕之特別講師による講義

第8回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月12日～14日の3日間、千葉県・勝浦市の日本武道館研修センターで実施された。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加募集定員を縮小して実施。全国で銃剣道を指導する中学校や高等学校の教員、地域指導者、計20名を対象に、学校授業における銃剣道体験授業指導法を中心とした内容により、講義や実技指導が行われた。

■1日目（11月12日）

開講式では、はじめに鈴木健全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が、それぞれ主催者挨拶を述べた。

開講式後、特別講師の田中裕之全日本柔道連盟参事より『学校における武道教育の必要性』の講義があり、「新学習指導要領の柱となる評価の3観点（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性等）は、『守』『破』『離』の考え方や、『精力』『善用』『自他共栄』の考えと同じである。これらを学校教育の中で身につけるべき力として、武道の持つ相手を尊重する心や克己心が、心と体を高める有効な手段となるのではないかと。指導者は、武道の価値、銃剣道の価値を各自で考え、答えを見つけておく必要がある」と述べた。

次に、瀬尾憲次講師による『学校授業における銃剣道体験授業指導法』として、体験授業1時限を想定した礼法や構え、足さばき、突き方などの基本的動作の指導が行われた。特に初心者は、膝や肩、握りについて、力を抜くことの大切さを説いた。



鈴木 健
副会長兼専務理事

■2日目（11月13日）

午前は、瀬尾講師による小学4年生の体験授業2時限版の2時間目を想定した指導が行われた。目標物を正確に突くため、投げたボールや広げた新聞紙を突く指導法が紹介された。

続いて、石川慎也講師と田村聖一講師が、真つすぐ木銃を突くための練習として、置いたボールを的に当てる指導が行われ、3人1組による練習の後、的に当てた点数を競うグループ対抗のゲームを行った。このゲームには、勝ち負けだけでなく、生徒3人の役割を決めることで、自主的な行動を促す狙いがある旨の説明があった。

午後は、石川講師と田村講師による通常授業版・授業用銃剣道の形（1本目・2本目）の指導が行われた。通常形と授業用の形を披露した上で、授業用の形には初心者が習得しやすいように動きを声に出したり、相手に当たらない距離を保つなどの違いがあることを説明。2人1組で練習した後、打方と仕方を決め、形演武試合のトーナメント戦を行った。



参加者による形演武試合

この日の最後は、情報交換会『中学校授業実施校の授業指導法報告』として外部指導者4名による報告が行われた。衛藤敬輔助講師から、教員から見た外部指導者像について参加者に問いかける場面もあった。

■3日目（11月14日）

鈴木講師が『全日本銃剣道連盟における必修化への対応と取組』と題して、これまでの経緯や武道推進モデル校制度による体験授業実施校の推移、成果と課題について講義を行った。最後に、「今後、さらに授業で採用してもらうために、安全性や経済的負担の少なさ、男女共習が可能な点などのメリットを最大限に生かして普及につなげていきたい」と結んだ。

閉講式では、瀬尾講師が講師講評を、鈴木副会長兼専務理事が主催者挨拶を行い、研修会の全日程を終了した。